

意見提出者	一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会
-------	-----------------------

1. 項目	救急車と医療機関を結ぶ救急・救命映像システムの導入加速化
2. 既存の制度・規制等によって ICT 利活用が阻害されている事例・状況	<p>救急医療の現場等で、救急隊員と医療機関のコミュニケーションには音声通話が主流であり、音声のみによるコミュニケーションでは、伝達できる情報に限界があるため、患者の症状や緊急度が必ずしも的確に伝わるとは言えない。また、1対1のコミュニケーションに限定されることから受け入れ可能な病院が見つかるまでに多くの時間を要している場合がある。</p> <p>救急車から患者の容態を表す映像・音声情報をブロードキャストで配信すれば、複数の医療機関で患者の受け入れ可否を適切に判断でき、緊急度に応じたマッチングや、受け入れ時間の短縮、また搬送時における救急医療行為への適切なアドバイスが可能となる。</p> <p>これらのシステムの導入においては、映像を安定的に送れる無線通信システムが無く、また、関係省庁が複数にまたがることから一元的な対応を行うことが難しく、救急・救命分野の ICT 利活用が進んでいない状況にある。</p>
3. ICT 利活用を阻害する制度・規制等の根拠	
4. ICT 利活用を阻害する制度・規制等の見直しの方向性についての提案	<p>救急・救命医療の改善は喫緊の問題であり、ライフイノベーションの具現化例のひとつとして、省庁の枠組みを超え、早急に検討を実施すべきである。尚、映像を送るシステムとして地デジ移行後の空き周波数を利用した公共ブロードバンド無線通信システムの利活用もひとつの方法と考える。</p>